

三十一音に想いを乗せて…
みそひともし



ながさきピース
文化祭の詳しい
情報はこちら

文化をみんなに

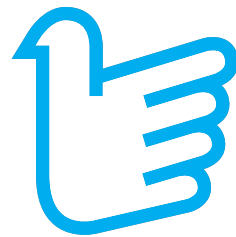
ながさきピース文化祭2025 はじまる!

全国規模の文化の祭典である「ながさきピース文化祭 2025」が始まりました。9月14日から11月30日までの78日間、県内各地で様々な催しが開かれます。対馬市でも全国から作品を募集して開催する「短歌の祭典」をはじめ、対馬で文化活動を行う人たちの発表の場や、対馬の歴史を学ぶイベントが予定されています。

ながさきピース文化祭2025（国民文化祭）とは

国民文化祭は、各地で行われている文化活動を全国的規模で発表、共演、交流する機会を作ること、国民の文化活動へ参加する機運を高め、これをきっかけに新しい文化活動が生まれることを目的に開催される、国内最大規模の文化の祭典です。昭和61年度から各都道府県が持ち回りでっており、平成29年度からは全国障害者芸術・文化祭とともに開催されています。

古代から日本と世界中の人々が交流する窓口であり、その交流によって独自の文化が発展してきた長崎県で開催される今回の文化祭は、ピース（平和）な時だからこそ、文化を楽しむことができる文化芸術を通じて、平和を長崎から国内外へ発信しようという思いを込め「ながさきピース文化祭」と名付けられました。11月30日までの期間中、県内各市町で、毎年全国で行われている文化の全国大会や各地域の特徴に合わせたイベントが行われます。



ながさきピース文化祭のロゴマーク。平和の象徴の「鳩」と、文化を育み、未来へつなぐ「手」がモチーフ

対馬で短歌の全国大会が開催

対馬市では短歌の全国大会が開催されました。短歌は、五・七・五・七・七の31の音で表現する日本独自の短い詩です。和歌とも呼ばれ、平安時代から日本で親しまれてきました。大会では、全国各地から短歌を募集し、対馬で入賞作品の発表と選評が行われます。



現存する最古の歌集「万葉集」には、対馬を題材にした約40首の短歌があり、歌碑が各地にあります。（写真は対馬グリーンパーク）

対馬の子どもたちも短歌作りに挑戦



短歌に取り組む豆酸中学生。
市内の多くの小中学生も短歌を作りました。



豆酸中学校2年生
勝井 福さん

応援しているプロ野球チームをテーマに作品を作りました。試合中、選手がホームランを打った時に感じた気持ちを言葉にしました。

今回の大会には、全国の約1300人から、2000点を越す作品が寄せられました。作品の中には、対馬の子どもたちが詠んだ短歌も多くあり、対馬や自分が好きなことを31音で表現しました。今年度で閉校する、豆酸中学校でも、5人の生徒たちが短歌作りに挑戦、それぞれ思い思いの作品を作り提出しました。

短歌の祭典 表彰式

全国から募集した短歌作品の入賞者の発表や入賞作品（一部）の講評を行います。また、万葉集に造詣の深い花井しおり氏（人間環境大学教授）並びに、対馬高等学校の生徒による記念講演を実施します。

【日時】 令和7年11月2日（日曜日）
9：00～12：30（予定）
【会場】 対馬グランドホテル



文化の『チカラ』で対馬を元気に

ながさきピース文化祭開催中、対馬では短歌の祭典以外にも様々な行事が行われます。これまで対馬の人たちによってつないできた文化の力を発表する場や、文化とまちづくりを融合させたイベントなど、文化で対馬を元気にするイベントがたくさんあります。



しまの芸術文化祭in対馬

対馬の舞台を中心にこれまで活動してきた団体が、町や団体の垣根を越えた、芸術文化祭を開催します。

第1部

激動の時代に翻弄される対馬を舞台で描く ミュージカル「対馬物語」

【日時】11月2日（日）13:30～ 【会場】対馬市交流センターイベントホール

入場料:500円（高校生以下無料）

初演から15年、島内外で感動を呼び続ける物語

戦国時代、朝鮮出兵や関ヶ原の戦いなど、時代の大きな波に翻弄された対馬をテーマに、平成23年に生まれた市民参加型のミュージカル作品です。これまで、島内での公演のほか、東京や福岡、長崎など国内各地はもとより、釜山でも公演を行ってきました。宗家第19代義智公を主人公に、小西行長の娘で妻となるマリアと家臣など、日本と朝鮮の間に立ち、自らの生存のために両国の平和な関係を築くために奔走した対馬の人たちの姿を描いた物語です。



対馬物語は、役者だけでなく、合唱や舞踊、太鼓など、約70人が舞台上がり物語を作り上げます。



ジェームス三木さん
来島時の写真

人々の感情を動かし、進化し続ける作品

対馬物語は、大河ドラマなど数々の名作を世に生み出し、今年6月に亡くなったジェームス三木さんが脚本を手がけました。ジェームス三木さんが描いたのは、400年前の対馬で生きていた人々の等身大の姿。対馬の歴史を、登場人物の思いや悩み、抱える劣等感とともに描くことで、観客はもちろん、出演者ら作品に関わる人たちの感情を動かし続けています。そんな作品を、対馬に関わる人たちが演じ作り上げることで、さらに深みを増し、15年にわたって進化し続けています。

第2部

文化協会 芸能発表会

【日時】11月23日（日）10:00～ 【会場】対馬市交流センターイベントホール

対馬では、6町単位で文化協会があり、それぞれの地域で活動をする人たちが所属、年に一度、一年間の活動の成果を発表する芸能発表会を行ってきました。ながさきピース文化祭に合わせ、それぞれで活動する団体が集まり、その成果を発表する芸能発表会を開催します。

するイベントが盛りだくさん！



「国境の島」 対馬の歴史を学ぼう！

対馬には、国境の島だからこそその歴史があり、それらを知る遺構も残されています。イベントでは、講演会や現地ツアー、城下町を彩る竹灯りのライトアップなどを通じ、対馬の歴史を知り、魅力を再認識します。

11月
(8・9日) 対馬お城大使講演会と清水山城ガイドツアー

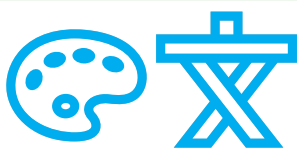
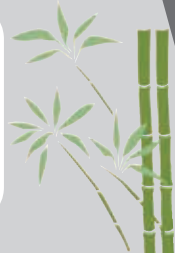
「国境の島」として日本の歴史的場面に立ち会ってきた「金田城跡（国特別史跡）」や「金石城跡（国史跡）」などを対象に、対馬お城大使の萩原さちこ氏を講師とした講演会、ガイドツアーを実施します。



11月
(2～30日) 城下町を竹灯りでライトアップ



古くから城下町として栄えた厳原町中心部を竹灯りで彩ります。イベント中には竹灯りを作るワークショップを開催し、作った竹灯りを「金石城櫓門前」に設置します。



障がい者ふれあい芸術文化祭

前期：10月30日（木）～11月3日（月）
後期：11月6日（木）～11月10日（月）
作品販売会：11月2日（日）

障がいおよび障がい者への市民の理解を広げるとともに、障がい者の自立と社会参加を促すことを目的として「第22回対馬市民美術展」と合同で作品展を実施します。また、開催期間中に障がい者の方が制作した作品の販売会を実施します。



対馬の万葉～防人たちの詠～

講演会：11月2日（日）
バスツアー：11月3日（祝）
雅楽公演：11月8日（土） 18:30～ 金石城櫓門前

対馬の万葉文化の魅力を再発見するとともに、市内外に広く発信するため、講演会や雅楽公演、島内の景勝地をめぐるバスツアーを開催します。



問い合わせ

生涯学習課 ☎0920(88)2004

福祉課 ☎0920(58)1119